

## 米国の金融緩和と成長国の通貨高

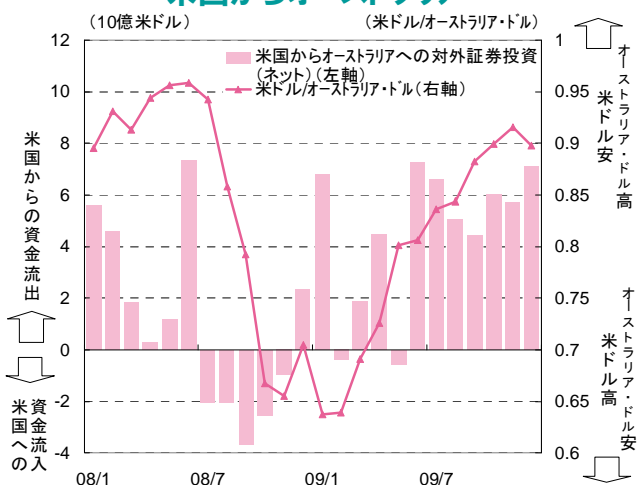
世界の投資資金は、常に高いリターンを求めて、成長機会の高い国や企業へと流れる傾向にあります。その資金の流れを把握するひとつの手段として、各国の対外証券投資の動向が注目されています。対外証券投資は、居住者による海外株式や債券などへの投資動向を表すことから、その内訳を見ることでどの国や地域への投資魅力が高まっているかなどを知ることができます。下図は、米国の対外証券投資(米国の投資家による海外資産取得)のうち、オーストラリアおよびブラジルの資産への投資金額を抽出したグラフです。現在、景気回復が遅れている米国と、景気回復に先行するオーストラリアおよびブラジルを例に、資金の流れをみていきましょう。

金融危機発生以前の2008年前半までは、米国を上回る成長が期待されたオーストラリアやブラジルへ、米国の投資家は資金を向かわせる傾向がありました。金融危機の発生以降、より安全な米国国内の資産に、投資資金の回帰が起きました。その後、金融市場の混乱が収まるにつれ、再び米国の投資家はオーストラリアやブラジルへの証券投資を活発化させました。オーストラリアやブラジルは、金融危機後、いち早く景気が回復・好転したことに加え、それによる金利の引き上げ観測などもあり、資金流入が活発化したと考えられます。そして、このような投資資金の流れは、通貨の動きにも影響を与えています。米国の投資家が他国へ資金を流出させるような局面では、米ドル売り・他国通貨買いから米ドル安・他国通貨高の傾向に、反対に米国国内に資金を流入させるような局面では、米ドル買い・他国通貨売りから米ドル高・他国通貨安の傾向がみられます。

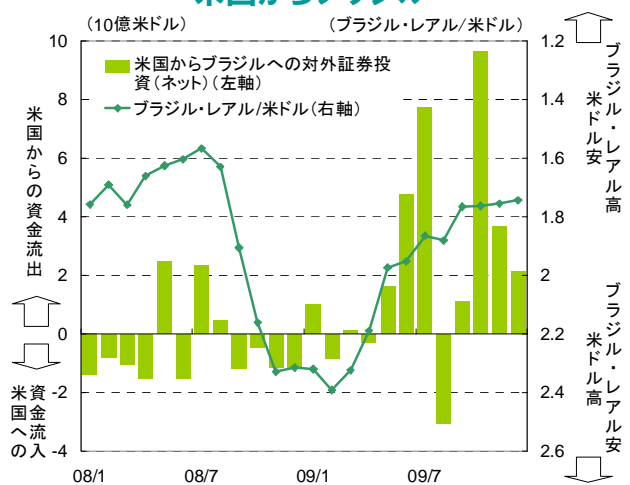
景気回復が遅れる米国は、金融緩和が長期化し、資金の潤沢な供給が続くと予想されています。豊富に供給される米国の投資資金は、引き続き高成長国・高金利国といった高いリターンが期待できる国や通貨に向かいやすいと予想され、米国から資金が流入する国の通貨を押し上げる要因となりそうです。高成長国・高金利国の通貨にとって、しばらく追い風の環境が続くそうです。

## 米国からの対外証券投資(ネット)と通貨(対ドル)の推移(2008年1月~2009年12月)

## 米国からオーストラリア



## 米国からブラジル



※米財務省など信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。